

# 支援だより



平成26年度 第3号  
平成26年6月25日  
神奈川県立中原養護学校  
支援連携グループ

早いもので一学期もあと一か月になりました。四月には緊張の面持ちを見せていた児童生徒たちも、もうすっかり新しい環境に慣れ、毎日元気な姿を見せてくれています。

さて、平成26年度第3号「支援だより」の掲載内容は以下の通りです。

1. GL(グループリーダー)コーナー～GL・佐藤先生
2. イベント紹介
3. “見る力”について～作業療法士(OT)・笠原先生
4. コラム 進路支援・熊谷先生

## 1. GLコーナー

前は、ほとんど釣りの話で失礼しました。でも、今回も・・・やっぱり海系ですかね。

私は、海で遊ぶのが好きなだけなのですが、実は、ダイビングもやったりします。フィンとシュノーケルセットのスキンドайビングとタンクを背負ったスキューバダイビングと両方好きなのです。どうして好きかという、二つとも別々な理由があります。スキンドайビングは、ある程度の水深まで潜ると、スーッと落ちていく感覚。スキューバは、人工物がなく自然のものが音もなく広がり、空を飛んでいる感じ。

スキンドайビングは、一人でも潜れるのですが、スキューバはバディを組まないと潜れません。そこは、大きな違いでしょうか。緊急時に対応できるようにするためにバディを組むのですが、チームであればなお良いのでしょうかね。

ところで、本校の支援グループは、複数で支援にあたっています。チーム支援ということですね。いくら一人ですばらしい力を持って支援にあたっても、チームから生まれる支援にはかないません。

近隣の小中学校等から相談が上がってきたら、必ずチームで一度話し合いをし、それから小中学校等へ出かけていきます。話し合っていると、とても良い話し合いになるのです。

話し合いって大事ですね。話し合いは一人でできませんものね。

## 2. イベント紹介

### ヨコハマヒューマン&テクノランド 2014

～探しに行こう！暮らしに生きるリハビリテーション～

ヨコハマヒューマン&テクノランド(ヨッテク)は、福祉のことが分かる総合イベントです。2014年のヨッテクは『暮らし』がテーマです。「毎日の暮らしを快適に」入浴やトイレ、家の中の移動、調理など、毎日の暮らしの中にあるちょっとした不便を「快適」にしていくための役に立つ活きた情報、アイデアを豊富にラインナップします。

家の中だけでなく、外出先で、学校や施設の中で、こういった福祉機器、こういった技術、こういったアイデアがあれば、という日頃の疑問や不安に、リハビリテーションの専門職や福祉、医療にかかわる企業のスタッフがお応えします。

#### ～福祉機器の試用～

入浴用リフトや階段昇降機、屋内用車いす、コミュニケーション機器など、家の中の暮らしを支える福祉機器をリハ専門職の指導のもとで試用・体験できます。

#### ～住環境アドバイス～

段差の解消方法や手すりの設置位置など、より良い住宅環境を実現するために必要な、蓄積されたプロのリハビリテーション・ノウハウを紹介します。

#### ～介護技術を習得～

歩行介助や乗り移り動作の介助など、生活場面での介助技術をリハ専門職が実演を通して伝授します。

●日時 7月11日(金)、12日(土) 10:00～17:00

●場所 パシフィコ横浜 展示ホールD

JR・横浜市営地下鉄「桜木町駅」下車、みなとみらい線「みなとみらい駅」下車

● 入場無料

主催 社会福祉法人 横浜市リハビリテーション事業団

共催 横浜市健康福祉局／横浜市こども青少年局／パシフィコ横浜

問い合わせ ヨッテク運営事務局 横浜市総合リハビリテーションセンター 研究開発課 内

TEL 045-473-0666 FAX 045-473-1299

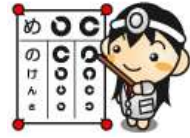
# 3. 見る力について

作業療法士(OT)  
笠原先生のコラムです

## ～見る力について～

ものを見るという行為には、脳が深く関与しています。眼で入力し、脳で情報処理し、体で出力するという、3つのプロセスがすべてできて、ものが見えたということになります。いずれかひとつでも困難があれば、生活するなかで、見えづらさの問題が出てきます。

今回は、まず視力についてお話したいと思います。



視力はものの存在や形状を認識したり、判断したりする能力です。一般的な視力は、「ランドルト環」という1か所に切れ目のある環を5m離れたところから見て視力を測定します。

### 近視の場合



遠くのものがぼやけて見えにくい状態です。近くを見るには目を近づければ見えます。遠くが見えにくくて不便な場合に凹レンズで矯正します。

### 遠視の場合

近くを見る時も遠くを見る時もはっきり見えにくく、常にピント合わせが必要な状態です。かなりの度が強い遠視でなければ、生活上はあまり困りませんが、目に負担がかかるため、疲れやすく、集中が続かないという傾向があります。凸レンズで矯正し、いつもかけていることが原則です。



### 乱視の場合



縦方向と横方向でピントの合う距離が異なる目で、近くのものも遠くのものもひずんで見えます。弱い乱視があっても、日常生活には問題なく、強い乱視の場合は円柱レンズで矯正します。

### \*弱視とは？

子どもの視力は、生まれた直後はお母さんの顔がやっと見える程度です。それが生後ものをしっかり見ることによって、脳が刺激され視力が発達していきます。しかし、斜視や遠視、そのほか白内障など先天的な眼の病気がある場合に、視力の発達が妨げられ弱視になる場合があります。

遠視による弱視の場合は、遠視用のメガネをかけることでよくなります。

斜視による弱視の場合は、良いほうの目を隠して弱視の目を使わせる遮閉法が基本です。眼の筋肉を調整する手術を行うこともあります。

白内障などの先天性の病気の場合は、弱視をおこすもとになっている病気をなるべく早く治療することが基本です。



# 4. コラム

今月は、  
進路支援・熊谷先生の  
コラムです。

## 進路支援のつれづれに

「卒業したどうなるの」と生徒に問うと「社会人になって働きます」と答えてくれる。頼もしいことだと思う。

生徒が素直に働く気持ちを持っているなら、応援してあげたいと思うのも当然だろう。「何とかして、いい勤め口を探してあげたい（もちろん福祉も企業も）」と欲が出てしまう。職務としては当然なのだけれど、それだけではない気もする。卒業生に職場で会おうと、「ああ、ずいぶん一端になったなあ」と思うことも多い。そんな光景の積み重ねが自分を動かしている。

しかし、親も教員も人間だ。本人のことを忘れて自分の願望が先んじてしまうこともある。そんな「とりつかれたような」時には、「働くこと」について、ちょっと考え方の逆転を試してみる。

【逆転①】子どものころには「もっと機械文明が発達すると、人間はもっと価値がある創造的な仕事ができるようになるよ」と教わった。きっとみんながそんな気分だった。ところが今になってみると「そうなのかな」と感じている人が多いはずだ。だから、テレビでは「頑固職人」だの「暖簾を守る」だのがかっこよく描かれているのであって、「バンバン合理化して機械に入れ替えちゃおう」ではドラマにならないのである。でも一度食べた美味しい文明は忘れられない。私たちは「創造的な仕事」をしなくては価値がないのだろうかと問いかけてみる。

【逆転②】「やりがいのある自分に合った仕事」をしようということも盛んに言われる。確かに「まったく合っていない仕事」というのはよろしくないが、そんなに都合よく仕事のマッチングができるのだろうか。有名なアナウンサーが「友達の試験を受けに行くんでついでに面接に行ったら、とりあえずお前もやってみろということで始めたんです」と言っていた。「何となく始めてみて、気が付いたら何十年もやっていた」なんていうことのほうが多いのでは、とも思うのである。人間の将来をそれほど分析できるものなのだろうかと問いかけてみる。

【逆転③】「好きな仕事を無理なくするのがいい」という考えもある。実際、特に障害のある方々の仕事を、そのように捉えてきた人も多かったのではないかな。しかし様々な施設や企業を訪れてみると、なぜ障害がある人だけが別扱いなのかが段々に分からなくなってくる。もちろん、支援が必要なことがあるのは分かっているし、す

べての方をひとくくりにする誤りも分かっているのだが、いやしくも社会人になったら「相応の鍛錬や忍耐も」が要るのではないかなと問いかけてみる。

3つ、発想の逆転を試してみた。いつも当たり前と思っていることをちょっと問い直してみる。もちろん結論はでないが、思い込みに捕らわれている自分を解放してくれるかもしれない。

さてさて、駄文を書き散らすのはもう止めて現実に戻り、後期実習の作戦を練ることにしよう。



微細なコイル巻き（私にはできない）



おしぼりの流す手つきも慣れたもの

**支援だよりへのご感想、ご質問は**

**e-mail : nakahara01-sh@pen-kanagawa.ed.jp まで！**

**中原養護学校ホームページ**

**[http:// www.nakahara-sh.pen-kanagawa.ed.jp/](http://www.nakahara-sh.pen-kanagawa.ed.jp/)**